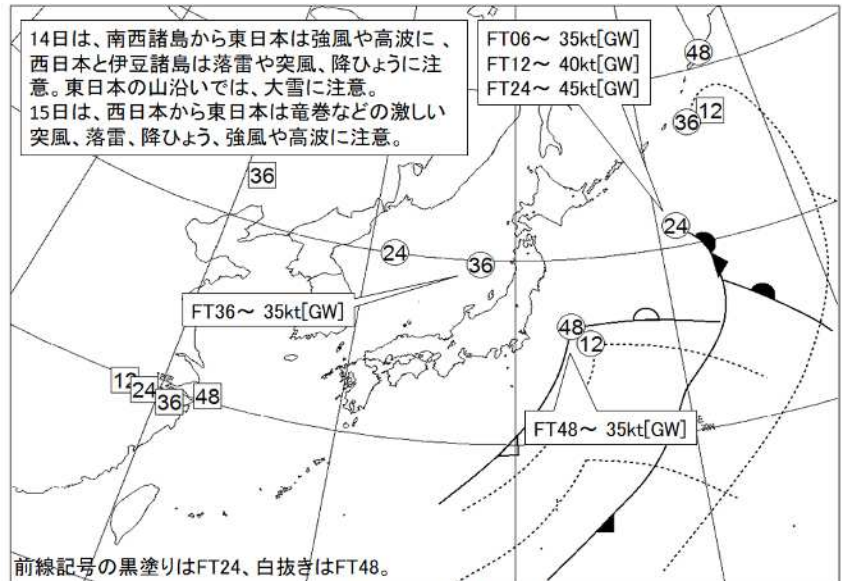


短期予報解説資料 2020年3月14日15時40分発表

気象庁 予報部

1. 実況上の着目点

- ① 対馬海峡付近に500hPa 5400～5520m 対応の寒気を伴ったトラフ（-27℃以下）があって東南東進。トラフ対応の前線を伴った低気圧が日本の南の海上を東北東進。八丈島周辺では1時間30mm前後の降水を解析。また、前線北側の西日本や東日本では1～5mm程度の層状性降水が卓越。
- ② 中国大陸には高気圧があって、東シナ海に張り出している。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは14日夜にかけて、東日本を通過。前線を伴った低気圧が日本の南海上を発達しながら東北東進、14日夕方にかけて伊豆諸島を通過。その後、日本の東を更に発達しながら北東進し、14日夜には最大風速40kt[GW]に達し、15日朝には最大風速45kt[GW]に達する。低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入、伊豆諸島では大気の状態が不安定となる。落雷、突風、降ひょうに注意。また、関東甲信地方の標高の高い所では降雪となる。大雪に注意。
- ② 14日は1項②の高気圧と低気圧との間で気圧の傾きが大きくなるため、南西諸島から東日本の太平洋側にかけて風が強まり波も高くなる。強風や高波に注意。また、西日本の日本海側では1項①の500hPa 寒気トラフの影響により、大気の状態が不安定となるため14日夜にかけて落雷、突風、降ひょうに注意。
- ③ 15日は500hPa 5220～5340m 付近の寒気トラフ（-30℃以下）が中国東北区から日本海に深まりながら南東進、トラフに対応する低気圧が15日朝には日本海西部で発生し、15日夜には最大風速35kt[GW]に達する。西日本を中心に風が強まるため、強風や高波に注意。15日は寒気トラフが深まりながら西日本へ接近、西日本や東日本では大気の状態が非常に不安定となる。東日本から西日本の日本海側を中心に竜巻などの激しい突風、落雷、降ひょうに注意。
- ④ 16日は500hPa の寒気トラフ（-33℃以下）が深まりながら東日本に接近。トラフ対応の低気圧が16日朝には関東地方の東海上に発生し、前線を伴って発達しながら北東進。西日本から東日本では16日は寒気移流が強まるため、大雪となるおそれがある。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とし、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

- ① 大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：東北・関東・伊豆諸島・近畿・中国・九州北部・九州南部・奄美・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。